

国際日本研究専攻後期

専攻共通科目(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMA02	プロジェクト演習4	2	1.0	2	通年	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	受講者は、自らの研究プロジェクトに基づいた博士論文の予備的論文を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組みの展開、主要な先行研究との関連、主要な素材分析結果、学問的な諸発見と貢献を提示するとともに、博士論文の中核となる諸章を発表する。	対面(オンライン併用型)

専門科目(ディシプリン共通科目)(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMC01	リサーチ・プログラム開発9	2	2.0	1	春ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4」とは別のものでなければならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 0BBE000と同一。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
02DMC02	リサーチ・プログラム開発10	2	2.0	1	秋ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1,2,3,4,5」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 0BBE001と同一。要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

02DMC03	リサーチ・プログラム開発11	2	2.0	2	春ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4, 5, 6」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 OBBE002と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
02DMC04	リサーチ・プログラム開発12	2	2.0	2	秋ABC	応談	国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はインターネット上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立って、指導教員の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がある。本演習では早期修了のために必要な学習プロセスの基本(学会発表等)についても学ぶ。「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3, 4, 5, 6, 7」とは別のものでなくてはならない。	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 OBBE003と同一。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

専門科目(リサーチ・プログラム開発)(平成27年度以降入学対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMD03	リサーチ・プログラム特別開発3	2	1.0	1-3	春ABC	応談		国際日本研究学位プログラム全教員(後期)	本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および専攻長に履修の意思を示し、専攻教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。学生は自らの研究テーマに関して、専攻長、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学会会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量が必要とする。学生は総括レポートを必ず指導教員および専攻長に報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は専攻において審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。	申請・許可が必要(特別演習) 対面(オンライン併用型)

02DMD04	リサーチ・プログラム 特別開発4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および専攻長に履修の意思を示し、専攻教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。</p> <p>学生は自らの研究テーマに関して、専攻長、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。</p> <p>学生は総括レポートを必ず指導教員および専攻長に報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は専攻において審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。</p>	申請・許可が必要(特別演習) 対面(オンライン併用型)
02DMD05	リサーチ・プログラム 開発基礎3	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動を企画運営または参画することを通して、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。</p> <p>本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通して身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。</p> <p>なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。</p>	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)
02DMD06	リサーチ・プログラム 開発基礎4	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	国際日本研究学位 プログラム全教員 (後期)	<p>構成教員や主指導教員(副指導を含む)の協議をふまえ、国内外学会、シンポジウム、学術会議、公開講座などの研究教育に関連する活動を企画運営または参画することを通して、資料調査・サーベイ等による研究能力にとどまらず、運営事務や企画調整等のマネジメントおよびコミュニケーションといった実践能力の涵養を併せて図ることを目的とする。履修者は、その活動および成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録し、活動終了後に学位プログラムリーダーへ提出する。提出された「ノート」は教育会議に諮って審査し、合格が認められた者に1.0単位を付与する。</p> <p>本科目を適用できる活動は、原則として構成教員や主指導教員(副指導を含む)が教育会議に付議して認められた企画・活動に限るものとし、履修者はその活動の準備から終了まで積極的に参画すること。また、履修者の「ノート」は、通常10回分の講義および予復習を通して身につけられる程度に相当し、自らの研究活動に寄与する質量であることが望ましい。</p> <p>なお、早期修了希望・早期修了希望以外のいずれの学生であっても、教育会議の審議の結果、認められれば履修することができる。</p>	履修を希望する者は、概要を必ず一読して関係各所にあらかじめ相談すること。履修登録は履修を認められたのちに行うこと。 要望があれば英語で授業。対面(オンライン併用型)

専門科目(国際日本社会科学学位プログラム)(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DME14	日本社会と計量分析2A		1	1	春AB	月5		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析の概要、基礎集計(度数分布)、記述統計(代表値、散布度)など統計の基本概念を理解し、計量分析4Aを勉強するための土台作りを行う。また、これらの知識を取得している場合は、多変量分析の基礎部分(各種検定、相関分析、回帰分析、カテゴリカル回帰分析、ロジスティック分析)で、柔軟に講義する。	OBBE504と同一。 対面(オンライン併用型)

02DME15	日本社会と計量分析2B	1	1.0	1	春AB	木5	崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析3Aで学んだ知識(基礎集計、記述統計)を土台とし、関連分析(相関分析、回帰分析)を中心とした、計量分析の入門的な概念を理解し、発展させる。また、これらの知識を取得している場合は、多変量分析の高度な部分(主成分分析、因子分析、判別分析、クラスタ分析、テキスト分析など)で、柔軟に講義する。	OBBE506と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME16	日本社会と計量分析演習2A	2	1.0	1	春AB	月6	崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析3Aに相当する知識(基礎集計、記述統計)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、一連の分析プロセスや、SPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を学び、計量分析4Bでの高度な分析を行うための土台作りを行う。	OBBE505と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME17	日本社会と計量分析演習2B	2	1.0	1	春AB	木6	崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析4Aに相当する知識(相関分析、回帰分析)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、計量分析3Bで学んだSPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を土台とし、高度な分析(相関分析、回帰分析、因子分析、各種検定など)を行う。	OBBE507と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME20	グローバル経済と日本(金融と日本社会)5A	2	1.0	1	春AB	金4	高橋 秀直	この講義の目的は、金融論、国際金融の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。	西暦奇数年度開講。 OBBE608と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME21	グローバル経済と日本(金融と日本社会)5B	2	1.0	1	秋AB	月5	高橋 秀直	この講義の目的は、金融論の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。	西暦奇数年度開講。 OBBE609と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME22	グローバル経済と日本(金融と日本社会)6A	2	1.0	1				この講義の目的は、金融論の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係、貨幣および決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。日本の銀行システムの歴史的形成過程や機能の議論について学ぶ。例えば、高度成長期、バブル経済の崩壊、非伝統的金融政策について概観する。親母子講や模合等の民間金融の世界についても触れる。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。	西暦偶数年度開講。 OBBE610と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME23	グローバル経済と日本(金融と日本社会)6B	2	1.0	1				この講義の目的は、金融論の様々な論点を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係と決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。金本位制やブレントウッズ体制などの国際金融制度あるいは、大恐慌やアジア金融危機等の国際金融危機について一通り学ぶ。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。博士論文として金融と関わる論点を検討する参加者には、博士論文の一章として成立するような形で、期末レポートをまとめてもらう。	西暦偶数年度開講。 OBBE611と同一。 対面(オンライン併用型)

02DME28	グローバル経済と日本 (現代日本経済史) 1A	2	1.0	1	春B	応談	平沢 照雄	本授業はグローバル競争時代の地域企業経営およびその課題について専門的に研究する前提として、グローバル競争以前の経営・事業展開を歴史的に検討することを目標とする。その場合、本授業では、経済の発展に貢献することを強く意識した「地域貢献型企業」や、地域に存在する「ニッチ・トップ企業」、「研究開発重視型企業」、「自立志向型企業」などに着目し、その事業展開を歴史的に検討することを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	受講者多数の場合、科目等履修者が履修不可となる場合がある。西暦奇数年度開講。OBBE616と同一。対面(オンライン併用型)
02DME29	グローバル経済と日本 (現代日本経済史) 1B	2	1.0	1	秋A	木1,2	平沢 照雄	本授業はグローバル競争時代における地域産業の衰退あるいは再生・活性化について専門的に研究する前提として、グローバル競争以前の地域産業の発展および産業集積の形成・展開について歴史的に検討することを目標とする。その場合、本授業では、地域経済の発展を支えてきた基軸産業の歴史的な変遷や地域内におけるキー・プレイヤーの変遷などに着目し、地域経済発展のダイナミズムを明らかにすることを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	受講者多数の場合、科目等履修者が履修不可となる場合がある。西暦奇数年度開講。OBBE617と同一。対面(オンライン併用型)
02DME30	グローバル経済と日本 (現代日本経済史) 2A	2	1.0	1				本授業はグローバル競争下における地域企業経営および事業展開を、それ以前の展開と対比させつつ専門的に検討することを目標とする。特に本授業では、グローバル競争に適応しつつ持続的な企業成長を実現し、地域経済の発展に貢献しつつある企業に着目し、それらの企業が、グローバル競争のなかでどのような問題に直面し、どのような経営改革(「第2の創業」も含む)や新たな取り組みを展開しているのかについて具体的に検討することを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	西暦偶数年度開講。OBBE618と同一。対面(オンライン併用型)
02DME31	グローバル経済と日本 (現代日本経済史) 2B	2	1.0	1				本授業はグローバル競争下における地域産業の衰退あるいは再生・活性化に関して、グローバル競争に突入する以前の地域産業あるいは産業集積の発展と対比させつつ専門的に検討することを目標とする。特に本授業では、グローバル競争下における産業集積の縮小や機能低下あるいは地域内の基軸産業の衰退に直面するなかで、新たに組み込まれている再生・活性化策やイノベーション・ダイナミズムと地域産業との関連などについて具体的に検討することを主なテーマとする。授業にあたっては、教員が着目する事例を予め提示し、その事例の重要点について説明する。それを踏まえ担当者が当該事例に関する調査結果を持ち寄り報告し、受講生全員による検討・討論を行うという形で授業を進める予定である。	西暦偶数年度開講。OBBE619と同一。対面(オンライン併用型)
02DME40	グローバル社会と日本 (法と市民社会) 5A	2	1.0	1	春AB	応談	根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。OBBE708と同一。対面(オンライン併用型)
02DME41	グローバル社会と日本 (法と市民社会) 5B	2	1.0	1	秋AB	応談	根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。OBBE709と同一。対面(オンライン併用型)

02DME42	グローバル社会と日本 (法と市民社会)6A	2	1.0	1					近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する「法と市民社会1A, 1B, 2A, 2B, 3A, 3B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE710と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME43	グローバル社会と日本 (法と市民社会)6B	2	1.0	1					近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A, 1B, 2A, 2B, 3A, 3B, 4A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE711と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME44	グローバル社会と日本 (法と現代社会)5A	2	1.0	1	秋AB	応談		宮坂 渉	国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味感心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料に基づいて検討するために、ローマ法が現代まで連続と受け継がれてきた経緯を概説した上で、ローマ法の内容を現代に伝えるラテン語史料、特に法学提要Institutionesの検討を中心に議論する。	西暦奇数年度開講。 OBBE712と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DME45	グローバル社会と日本 (法と現代社会)5B	2	1.0	1	秋AB	応談		宮坂 渉	国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味感心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料に基づいて検討するために、ローマ法が現代まで連続と受け継がれてきた経緯を概説した上で、ローマ法の内容を現代に伝えるラテン語史料、特に学説彙纂Digestaの検討を中心に議論する。	西暦奇数年度開講。 OBBE713と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DME46	グローバル社会と日本 (法と現代社会)6A	2	1.0	1					国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味感心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料と研究文献とに基づいて検討する。	西暦偶数年度開講。 OBBE714と同一。 対面(オンライン併用型)

02DME47	グローバル社会と日本 (法と現代社会)6B	2	1.0	1					国家制度と法が時代的、地域的に限定された諸条件の下で生み出され展開されること、それにもかかわらずローマ法は日本を含む現代世界まで受け継がれるだけの普遍性を内包していたこと、を理解することができるようになることを目標とする。本演習では、ヨーロッパの法文化の基礎であり、これを受け継いだ日本の法文化の基礎の一部でもある、古代ローマの国家制度と法(一般にローマ法と呼ばれている)を題材とする。古代ローマの歴史・社会(法を含む)・文化に対する興味関心を喚起すると共に、ローマ法がいかなる法的紛争に対し、いかなる解決を与えてきたかを史料と研究文献とに基づいて検討する。	西暦偶数年度開講。 OBBE715と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME61	グローバル政治と日本 社会(ゲーム理論と日本 社会)5A	2	1.0	1 - 3					協力ゲーム理論に関する専門的な最新研究論文や研究書を輪読する。必要に応じて位相数学や凸解析の数学的トレーニングとして、これらのテキストの輪読も行う。協力ゲームの様々な解の公理的特徴付けだけでなく、非協力ゲーム理論に基づく戦略的観点から、協力ゲームの様々な解概念の性質を検討する(ナッシュ・プログラム)研究も積極的に扱う。さらにこれらに理論的知見を、履修者が関心を持つ様々な社会・経済現象に応用する手法を検討しながら研究の指導を行う。	西暦偶数年度開講。 OBBE602と同一。 対面
02DME62	グローバル政治と日本 社会(ゲーム理論と日本 社会)5B	2	1.0	1 - 3					進化ゲーム理論及びプレイヤーの学習モデル、そしてこれらに基づいた非協力ゲーム理論の均衡選択問題に関する研究の指導を行う。受講生の理解の水準に合わせて、これらの研究書もしくは必要となる確率過程や微分方程式のテキストの輪読を行う。これと並行して最新の研究論文を精読する。具体的なテーマは、ポテンシャル・ゲーム、確率進化ゲーム、選好進化の理論、言語の進化モデル分析などを予定している。これらの最新理論の経済学や政治学への応用研究論文も扱い、受講生の関心に沿った研究テーマ設定をして論文指導を行う。	西暦偶数年度開講。 OBBE603と同一。 対面
02DME67	グローバル社会の比較 政治5A	2	1.0	1・2					本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文(「比較政治4」、「Comparative Politics 3」、「Comparative Politics 4」で取り上げなかったもの)の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が博士論文の着想を得ることにある。受講者は自身の論文や研究計画を報告し、他の参加者や担当教員との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	西暦偶数年度開講。 OBBE404と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME68	グローバル社会の比較 政治5B	2	1.0	1・2					本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文(「比較政治3」、「比較政治4」、「Comparative Politics 3」で取り上げなかったもの)の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が査読付学術誌に出版できる能力を身に付けることにある。受講者は自身の論文を報告し、他の参加者との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	西暦偶数年度開講。 OBBE407と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME75	グローバル社会の比較 政治7A	2	1.0	1 - 3	春AB	月5		関 能徳	本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文(「比較政治3」、「比較政治4」、「Comparative Politics 4」で取り上げなかったもの)の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が博士論文の着想を得ることにある。受講者は自身の論文や研究計画を報告し、他の参加者との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	西暦奇数年度開講。 OBBE406と同一。 対面(オンライン併用型)
02DME76	グローバル社会の比較 政治7B	2	1.0	1 - 3	秋AB	月5		関 能徳	本科目の目的は、政治学のトップ・ジャーナルに掲載された論文(「比較政治3」、「Comparative Politics 3」、「Comparative Politics 4」で取り上げなかったもの)の講読を通して、比較政治の理論や方法に関する理解を深め、受講者が査読付学術誌に出版できる能力を身に付けることにある。受講者は自身の論文を報告し、他の参加者や担当教員との議論を通して、論文の質を向上させることが期待される。	西暦奇数年度開講。 OBBE405と同一。 対面(オンライン併用型)

専門科目(国際日本複合研究領域学位プログラム)(平成27年度以降入学対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	----	------	------	----

02DMK05	韓国の家2	2	1.0	1 - 3	秋AB	火2			韓国社会における「家」について他文化圏との比較考察を交えつつ学ぶ。韓国の「家」は、伝統的に儒教思想の強い影響下にあったが、植民地の時代を経ながら、また近代化の進行の中で変貌を余儀なくされている。現代においては高齢化問題、少子化問題の深刻化が進み、政治・社会・経済の変動にともなう、老父母扶養の問題、夫婦間の役割問題、親子間の価値観問題なども顕在化している。この授業では、主に韓国の伝統的な家族倫理と家庭教育の内容に関する諸文献を講読しながら、中国、日本の「家」との比較考察を行う。	西暦奇数年度開講。 OBBE111と同一。 対面(オンライン併用型)
02DML08	日本古典文化と身体2	2	1.0	1 - 3					東アジア地域において同じ儒教文化圏に属しながらも、武人政権の長い歴史を持っている日本文化は、儒教的身心論の展開においても中国と朝鮮とは異なる特性を表している。一つは「文武二道」として、日常生活のなかでの身体的能力の錬磨の重視であり、もう一つは「賞罰を施すと云も、此身のはたらき上に従て置れ」というような、身体的行動がもたらす結果を心的な動議よりも重視している点である。この授業では、こうした点をベースにおいて、江戸時代の儒学者の言説を取り扱い、日本人が伝統的に受け継いできた身体的所作について、中国、韓国との比較においてその文化的意義を学ぶ。	西暦偶数年度開講。 OBBE130と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMM07	情報社会・メディア・図書館	1	2.0	1 - 3	春AB	木3.4	研究室	後藤 嘉宏	メディア論におけるメディア史の時代区分に焦点を当てて論じる。講義担当者は中井正一のメディア論を研究している。したがってまず授業の前半部分は中井正一のメディア論におけるメディア史の時代区分について、中井の他の側面と照らし合わせながら、講義する。そのあと、アレント、マクルーハン、オング、ベンヤミン、フーコーなどの広い意味でのメディア論・言語論・芸術論におけるメディア史の時代区分との対比のなかで、中井の独自性あるいは限界を浮き彫りにする。授業は主に講義形式で行うが、講義形式での説明の前に、毎回上記論者の邦語邦訳書物を受講者の誰かが一冊読んで報告する。さらに上記論者に関する最新の英語文献、あるいは存命のメディア論者の英語文献をこちらで選び、報告して貰う機会も設ける。それらの部分は演習形式となる。	履修は図書館情報メディア専攻学生に限る。 02MA109と同一。
02DMP05	国際政治と共生3A	2	1.0	1 - 3	秋AB	木3		大友 貴史	本科目の目的は、様々な文献を通し国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的分析能力をさらに身につけることにある。また、受講者は関心のある研究対象について報告をすることを通して、分析を進める上で核となる方法論や議論の組み立て方について学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OBBE412と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMP06	国際政治と共生3B	2	1.0	1 - 3					本科目の目的は、様々な文献を通し国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的分析能力をさらに身につけることにある。関心のある研究対象についての報告、そして参加者との討論を通して、また、完成度の高い論文や著書を読み込むことを通し、核となる方法論や議論の組み立て方を学び自身のアーギュメントを再考し、改善する。	西暦偶数年度開講。 OBBE414と同一。 対面
02DMP15	政治とインターネット3A	1	1.0	1 - 3	春AB	応談		川崎 レスリー タック	The main purpose of this course is to provide students with an overview of theories regarding the use of the Internet for political purposes, including political campaigns as well as advocacy and social movements. We will be focusing mainly on theoretical uses of the Internet supplemented by case studies in certain national milieu and for designated social topics.	西暦奇数年度開講。 英語で授業。 対面(オンライン併用型)
02DMP16	政治とインターネット3B	1	1.0	1 - 3	秋AB	応談		川崎 レスリー タック	This course is a continuation of "Politics and Internet 3A" (02DMP15). During this course, the instructor will continue to provide students with an overview of theories regarding the use of the Internet for political purposes, including 21st century political campaigns as well as advocacy and social movements both using the Internet and about the Internet.	西暦奇数年度開講。 英語で授業。 対面(オンライン併用型)
02DMP18	グローバル共生の政治と市民社会3A	2	1.0	1・2					日本の政治や市民社会に関する日本語の文献を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献を精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	西暦偶数年度開講。 OBBE400と同一。 対面(オンライン併用型)

02DMP19	グローバル共生の政治と市民社会3B	2	1.0	1・2					日本の政治や市民社会に関する英語の文献を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献をを精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	西暦偶数年度開講。 OBBE402と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMP20	グローバル共生の政治と市民社会4A	2	1.0	1・2	秋AB	金3	山本 英弘		“Japan's Politics and Civil Society 3”に引き続き、日本の政治や市民社会に関する英語の文献(“Japan's Politics and Civil Society 3”では取り上げなかったもの)を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献をを精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	西暦奇数年度開講。 OBBE403と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMP21	グローバル共生の政治と市民社会4B	2	1.0	1・2	春AB	金3	山本 英弘		「日本政治と市民社会3」に引き続き、日本の政治や市民社会に関する日本語の文献(「日本政治と市民社会3」では取り上げなかったもの)を講読し、その内容を深く理解するとともに、受講者自身の研究に活かしていく。そのため、受講者の研究関心に応じた文献をを精読したうえで、課題設定、研究方法、議論の含意等について批判的に検討する。	西暦奇数年度開講。 OBBE401と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMQ03	日本研究演習2A	2	1.0	1 - 3	春AB	応談	明石 純一		移民・難民など現代の国際人口移動に関する現状、理論、政策、ガバナンスについて、政治学・国際関係論を中心に学際的に考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなうほか、時事的なケーススタディをもとに議論を深める。	西暦奇数年度開講。 OBBE704と同一。 対面
02DMQ11	ユーラシア地域研究演習3A	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談	ダダバエフ ティムール		中央ユーラシア史またはユーラシア地域と日本の交流史に関する研究文献を講読し、その内容について議論する。中央ユーラシア史の展開に関しては、ユーラシア草原地域における騎馬遊牧民集団の誕生から、シルクロードに代表される東西交易の展開、テュルク化とイスラーム化、モンゴル帝国・ティムール帝国の成立と展開、その後の中央ユーラシアの周縁化プロセスについて、最新の研究動向を把握し、個々の研究論文の内容について議論していく。また日本における中央アジア、ユーラシア理解、とくにシルクロード論争の展開などについて学び、その内容を議論する。	西暦奇数年度開講。 OBBE752と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMQ12	ユーラシア地域研究演習3B	2	1.0	1 - 3					中央ユーラシア史、人類学に関する研究文献を講読し、その内容について議論する。とくに19世紀以降のロシア帝国・ソ連期の中央ユーラシア諸国の政治、社会、経済、文化に関する歴史学、人類学を中心とした諸分野の研究論文を取り上げながら、その内容を議論する。またシルクロード探検事業から今日の中央アジアプラス日本の外交枠組み構築に至るまでの、19世紀後半以降の日本とユーラシア諸国との関係史について学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OBBE753と同一。 2023年度開講せず。
02DMQ13	ユーラシア地域研究演習4A	2	1.0	1 - 3					ソ連解体後のユーラシア諸国・地域における国家建設と社会変成の文脈の中での、政治組織の生成と発展のあり方について議論する。とくに、ソ連解体以降の地域統合、資源の分配、歴史の記憶、マハツラを中心とした社会編制などを取り上げながら、ユーラシア諸国の政治組織の生成と発展のあり方について考察する。	西暦偶数年度開講。 OBBE750と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMQ14	ユーラシア地域研究演習4B	2	1.0	1 - 3					ソ連解体後のユーラシア諸国・地域における政治組織の形成と解体過程について議論する。とくにソ連の遺産の政治的、社会的影響、国内政治エリート、社会内の諸アクターの役割、国際NGOの活動、マハツラを中心としたコミュニティ組織の社会的役割と政治参加などについて総合的に検討し、議論する。	西暦偶数年度開講。 OBBE751と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMQ15	ユーラシアの国際関係A	1	1.0	1 - 3	秋AB	応談	ダダバエフ ティムール		日本による中央アジアプラス日本のイニシアティブとロシア、中国などが主導する上海協力機構に焦点をあて、これらの外交イニシアティブの利点、弱点、課題と将来を検討する。とくに韓国、中国の対中央アジア外交および援助のあり方との比較を通じて、日本の対中央アジア外交の特徴を明らかにするとともに、米国、EU、ロシアなど中央アジア諸国への関与と、日本の関与のあり方との相互性についても検討する。	西暦奇数年度開講。 OBBE757と同一。 対面(オンライン併用型)

02DMQ19	ユーラシアの経済A	2	1.0	1					経済活動の基盤となる労働関係について比較歴史分析の視点から、少人数ないし個別面談の形で論文準備報告を行う。報告では、博士論文の一章分、ないし投稿論文、あるいは学会報告プロシーディングス等のフルペーパーを提出することを原則とする。これにもとづいてPPTで報告し、口頭報告、意見や質問に対する応答演習を行いつつ、コメントや全体での議論を通じて論文構成の長所および問題点についての認識を深める。論文の問題意識や論理構成、資料分析等について議論を通じてチェックするとともに、執筆のスケジュールリング、国内外での学会報告の計画準備を確認しつつ、論文を一章ずつ書き上げていく。	演習 西暦偶数年度開講。 02DM191、0BBE614と同一。 対面
02DMQ20	ユーラシアの経済B	2	1.0	1	秋AB	応談	田中 洋子		経済活動の基盤となる労働関係について比較歴史分析の視点から、少人数ないし個別面談の形で論文準備報告を行う。報告では、博士論文の一章分、ないし投稿論文、あるいは学会報告プロシーディングス等のフルペーパーを提出することを原則とする。これにもとづいてPPTで報告し、口頭報告、意見や質問に対する応答演習を行いつつ、コメントや全体での議論を通じて論文構成の長所および問題点についての認識を深める。論文の問題意識や論理構成、資料分析等について議論を通じてチェックするとともに、執筆のスケジュールリング、国内外での学会報告の計画準備を確認しつつ、論文を一章ずつ書き上げていく。	演習。科目等履修生の場合、事前連絡が必要である。 西暦奇数年度開講。 0BBE615と同一。 対面
02DMQ33	国際関係論A	2	1.0	1	春AB	火3	大友 貴史		本科目の目的は、様々な文献を通し国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的な分析能力をさらに身につけるところにある。また、受講者が関心のある研究対象についての報告、そして参加者との討論を通し、分析を進める上で核となる方法論や議論の組み立て方について共に考える。受講者は、他の学生の論文に対して、建設的なコメントをすることが求められる。	西暦奇数年度開講。 0BBE413と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMQ34	国際関係論B	2	1.0	1					本科目の目的は、様々な文献を通し国際関係の理論やアプローチに関する理解を深め、受講者の社会科学的な分析能力をさらに身につけるところにある。また、受講者は関心のある研究対象についての報告、そして参加者との討論を通し、分析を進める上で核となるアイデアをより効果的に伝える訓練を行う。	西暦偶数年度開講。 0BBE415と同一。 対面

専門科目(日本語教育学学位プログラム)(平成27年度以降入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02DMW13	言語文化研究演習1A	2	1.0	1	春AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。	西暦奇数年度開講。 0BBE814と同一。 対面
02DMW14	言語文化研究演習1B	2	1.0	1	秋AB	金3		小野 正樹	日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話や、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、レジュメ作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 0BBE815と同一。 対面
02DMW15	言語文化研究演習2A	2	1.0	2					日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 0BBE816と同一。 対面

02DMW16	言語文化研究演習2B	2	1.0	2				日本語を中心として、日本語らしさの文法形式と談話の流れや、それを分析するための言語研究や、日本語学習者に焦点を当てた学習者の日本語観察や、日本語教師の視点からの教授法など、日本語教育の応用を目指した研究を、先行研究を踏まえて、毎回決められた受講生が発表する。それを受けて、参加者間で議論を行う。発表者には、博士論文完成のため、他の受講者と徹底的な議論を行えるような、ハンドアウト作成技術を求め、受講者には批判的な意見を述べられるようなトレーニングの場とする。「言語と行動理論研究1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE817と同一。 対面
02DMW21	社会言語研究演習1A	2	1.0	1	春AB	月5	ブッシュネル ケード コンラン	会話分析の研究に対する批判の一つとして、順番取りや行為連鎖などとフォカスがあまりにもマイクロのせいで、その会話が置かれているいわゆる「コンテクスト」を見落とすがちだということである。会話分析では「コンテクスト」という概念がどのように捉えられるか、またコンテクストに関わる情報を記述しようとするエスノグラフィー的な研究手法とどのような関係を持つ可能性があるのかについて考えるために、会話分析とエスノグラフィーの相性について論じる研究や、会話分析とエスノグラフィーの手法を併用する「マイクロエスノグラフィー」の研究を取りあげる。授業では対象文献の内容を丁寧に確認し、ディスカッションをすることによって理解力を深める。また、受講生は各自でデータを集め、マイクロエスノグラフィー的な手法を用いて小規模な研究プロジェクトを遂行する。最後にその成果をレポートにまとめて提出する。	西暦奇数年度開講。 OBBE826と同一。 対面(オンライン併用型) 奇数年の春ab、月6
02DMW22	社会言語研究演習1B	2	1.0	1	秋AB	月5	ブッシュネル ケード コンラン	エスノメソドロジー的な研究によって、第2言語学習に関する研究に対してどのような見解が提供できるかを検討していきながら、特にSacks (1972a, 1972b, 1979, 1995)によって提唱され、Watson (1978, 1997)やJayyusi (1984)、Hester & Eglin (1997)、Stokoe (2012)、Bushnell (2014)、Fitzgerald & Housley (2015)などによってさらに展開されてきている成員カテゴリー化分析の基本的な考え方や分析の技術を身につけることを狙う。	西暦奇数年度開講。 OBBE827と同一。 対面(オンライン併用型) 奇数年の秋ab、月6
02DMW23	社会言語研究演習2A	2	1.0	2				ことばと行為のマイクロ分析研究2Aと2Bでは、1Aと1Bなどで身につけた分析技術を駆使して、一学年を通して教員と受講生全員やその他の協力研究者、院生で分担して英語でオリジナルな研究を論文の形にまとめて共著で実際に投稿することを目指す。2Aでは特に先行研究を吟味して自分たちで執筆する論文に使うデータや研究課題を検討しつつ毎週の発表で進捗状況を報告していく。	西暦偶数年度開講。 OBBE828と同一。 対面(オンライン併用型) 偶数年の春ab、月6
02DMW24	社会言語研究演習2B	2	1.0	2				ことばと行為2Bでは、2Aから進めてきている研究を継続しさらに発展させ、共同で一本の論文を英語で執筆する。最終的には適切な投稿先を決め実際に投稿してみることを目指す。	西暦偶数年度開講。 OBBE829と同一。 対面(オンライン併用型) 偶数年の秋ab、月6
02DMW29	日本語教育プログラム演習1A	2	1.0	1 - 3	春AB	水4.5	ブッシュネル ケード コンラン、 関崎 博紀、小野 正樹、井出 里咲 子、高木 智世、 ルート ヴァン パーレン、伊藤 秀 明、文 昶允	受講生は、「日本語教育学プログラム演習1B」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦奇数年度開講。 OBBE802と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW30	日本語教育プログラム演習1B	2	1.0	1 - 3	秋AB	水4.5	ブッシュネル ケード コンラン、 関崎 博紀、小野 正樹、井出 里咲 子、高木 智世、 ルート ヴァン パーレン、伊藤 秀 明、文 昶允	受講生は、「日本語教育学プログラム演習2A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育学プログラム演習1A」「同1B」「同2A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦奇数年度開講。 OBBE803と同一。 対面(オンライン併用型)

02DMW33	日本語教育プログラム演習3A	2	1.0	1 - 3					受講生は、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。 OBBE800と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW34	日本語教育プログラム演習3B	2	1.0	1 - 3					受講生は、「日本語教育プログラム演習1A」をふまえ、自分自身の博士論文完成を目的として、日本語教育学に関わる研究を、Power pointなどを用いた口頭発表と、ポスター形式で発表する。発表内容は「日本語教育プログラム演習1A」と異なるものとする。初めに、口頭発表で研究内容をアピールし、ポスターで詳細に議論する形式をとる。教員・院生が一体となって議論を行うことで、課題設定、分析方法の適性、現象の結果の真偽等を議論し、研究の深化を図る。受講者には、口頭発表の技術をしっかりと理解することを求める。加えて、学会などの運営手法も学ぶことも求め、プログラム作成、司会も担当する。	西暦偶数年度開講。 OBBE801と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW37	相互行為分析研究1A	2	1.0	1	春AB	金5		高木 智世	社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において、最も重要な分析概念の一つである「行為形成(action formation)」に関連する主要文献を精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのよう適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。	西暦奇数年度開講。 OBBE306と同一。 オンライン(対面併用型)
02DMW38	相互行為分析研究1B	2	1.0	1	秋AB	金5		高木 智世	社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法論的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。	西暦奇数年度開講。 OBBE307と同一。 オンライン(対面併用型)
02DMW39	相互行為分析研究2A	2	1.0	2					社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」において重要な分析概念を提示した基本文献を精読し、議論することによって、会話分析の手法について正確な理解を深める。また、各論文における記述や主張が、実際の日本語における社会的行為の産出と理解についての記述にどのよう適用可能かを検討する。これらの作業を通して、社会的行為を産出し、理解するというのはいかなることかという根源的問いに対する洞察を深める。「相互行為分析研究1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE308と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DMW40	相互行為分析研究2B	2	1.0	2					社会学者のHarvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jeffersonらによって開発された、相互行為組織の研究法である「会話分析」の理論的背景・視点・方法論的意義等について、重要文献を中心に精読し、議論することによって正確な理解を深める。また、その理解を踏まえた上で、モデルとなる先行研究論文を具体的に検討することを通して、会話分析的研究として論文を作成する際のポイントについて学ぶ。さらに、受講生自身が執筆中の研究論文について、相互に検討・討議し、質の高い投稿論文に仕上げる技術を身につける。「相互行為分析研究1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE309と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DMW41	日常会話のエスノグラフィー1A	2	1.0	1	春AB	木4		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OBBE302と同一。 対面(オンライン併用型)

02DMW42	日常会話のエスノグラフィー1B	2	1.0	1	秋AB	木4	井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦奇数年度開講。 OBBE303と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW43	日常会話のエスノグラフィー2A	2	1.0	2				文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE304と同一。 対面(オンライン併用型)
02DMW44	日常会話のエスノグラフィー2B	2	1.0	2				文化社会的な場に埋め込まれた実践行動としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して記述/解釈する方法について学ぶ。また英語と日本語のエスノグラフィーのケーススタディ論文を読み、それを土台として議論を行う力を養う。受講者各自がデータ収集を行う(フィールドワークと相互行為の文字化)体験を通して、自律的にコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。「コミュニケーションの人類学1A, 1B, 2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OBBE305と同一。 対面(オンライン併用型)

演習科目(国際比較研究領域)(平成26年度以前入学者対象)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DM191	比較日本経済演習IIA		2	1.0	1				経済活動の基盤となる労働関係について比較歴史分析の視点から、少人数ないし個別面談の形で論文準備報告を行う。報告では、博士論文の一章分、ないし投稿論文、あるいは学会報告プロシーディングス等のフルペーパーを提出することを原則とする。これにもとづいてPPTで報告し、口頭報告、意見や質問に対する応答演習を行いつつ、コメントや全体での議論を通じて論文構成の長所および問題点についての認識を深める。論文の問題意識や論理構成、資料分析等について議論を通じてチェックするとともに、執筆のスケジューリング、国内外での学会報告の計画準備を確認しつつ、論文を一章ずつ書き上げていく。	演習 西暦偶数年度開講。 02DMQ19, OBBE614と同一。 対面